

「水といのち」について考えよう

～水生生物ウォッチングを通して～

航海の特徴

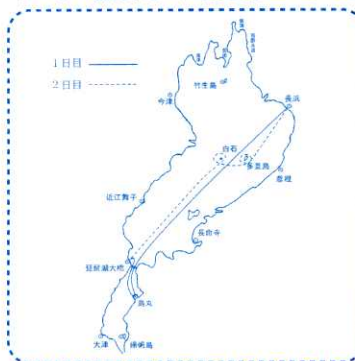
地元の川やびわ湖の実態を調べ、水(琵琶湖)の大切さや環境に目を向ける学習

事前の学習では、地域の川の観察を通して水生生物の実態を調べ、「うみのこ」に乗ってびわ湖の現状を自分で確かめようとする意欲をもつ。

フローティングスクールの2日間では、見学活動、「湖の子」水調べ、水のおこれ回復調べ、ヨシ笛づくり、カッター活動を行い、びわ湖を体感し、びわ湖の現状や解決していかなければならない課題に気付くとともに、実際に水辺に入って生き物を観察したり、CODの測定をしながらびわ湖を大切にすることを学ぶ。

事後、学校で、学習したことをもとにして、新聞や作文に表したり、来年度乗船する4年生に伝えたりする活動を通して学習のまとめとする。

(1) 航海の航路・日程



<1日目>

- 10:00 長浜港発
出港見学、開校式
- 13:20 烏丸港着
びわ湖環境学習Ⅰ
琵琶湖博物館見学
- 16:10 烏丸港発・出港見学
- 16:30 南湖展望
- 16:50 琵琶湖大橋港着
- 19:00 「湖の子」の夕べ

<2日目>

- 6:00 起床
- 6:30 朝のつどい
- 8:00 びわ湖環境学習Ⅱ
カッター活動
- 12:00 琵琶湖大橋港発
- 13:20 「湖の子」掃除
- 13:45 白石展望
- 14:10 多景島展望
- 14:40 閉校式
- 15:10 長浜港着、下船

(2) 展開事例

①学習活動のねらい

実際にびわ湖や生き物の様子を観察することで、水が生き物の命を支えていること、生き物が人間の命を支えていることを考えることができる。

②学習の流れ

学校での事前学習（課題見つけ 課題づくり 意欲づけ）

1. 身近にある川について調べよう。
 - ①実際に入って水や生き物の様子を観察しよう。
 - ②家の人や近所の人に昔の川の様子を聞き、今の川と比較してみよう。
 - ③学校の近くを流れる川の中や生き物の様子、水のにごりくあいを観察しよう。
2. びわ湖について調べよう。
 - ①インターネットでヨシのことについて調べよう。
 - ②ヨシ原の生き物を観察しよう。
 - ③びわ湖にすんでいる生き物を調べよう。

「うみのこ」に乗ってびわ湖の実態を確かめよう。

フローティングスクールでの学習

びわ湖環境学習Ⅰ<1日目>

【烏丸港】

- 琵琶湖博物館の見学
- 「湖の子」水調べ（白石付近・堅田沖・余呉川・高時川）

びわ湖環境学習Ⅱ<2日目>

【琵琶湖大橋港】

- 水のおこれ回復調べ（船内）
- カッター活動（琵琶湖大橋港沖）
- ヨシ笛づくり（船内）
- 「見つけよう！水といのち」（琵琶湖大橋港周辺）

- ☆ヨシ原をのぞいてみよう。
- ☆自分でつかまえた生き物を調べよう。
- ☆水のきれいさを調べよう。
- ☆ヨシ原にいる微生物を観察しよう

学校での事後学習（課題解決に向けて 調べる 行動する）

- ◎学習したことをワークシートや新聞にわかりやすくまとめる。
- ◎身近な環境問題について、自分たちのできそうな取り組みを話し合う。

(3) 活動の様子

びわ湖環境学習Ⅰ <1日目>



めあてにそつた琵琶湖博物館見学



「湖の子」水調べ

びわ湖環境学習Ⅱ <2日目>



水生生物ウォッチング



COD測定



ネイチャーガイドの話



カッター活動



水のよごれ回復調べ



ヨシ笛づくり

【児童の声】

- ・網でちょっとすくっただけでもいろいろな小さな生き物がとれた。
- ・船から見た景色はとてもきれいだった。
- ・びわ湖の水質のことなどたくさんのがわかってよかった。
- ・びわ湖はゴミでよごれていた。だから、ゴミのポイ捨てはしないようにしようと思った。
- ・水生生物をつかむのにびわ湖の中に入った。家の近くの川と比べてゴミが浮いていたり、水の色も汚れていたりしていた。

【指導者の声】

- ・実際に「水」や「いのち」にふれることにより、子どもたちには実感をともなった活動ができた。また、びわ湖を大切にしていかなければならないという意識を児童が持ったことが何よりの収穫だった。
- ・びわ湖について、水環境・水生生物・ヨシなど、さまざまなものを素材として学べたのはよかった。
- ・水草が繁茂していて、予定していた投網で水生生物をつかまえて観察する活動ができなかったのは残念だったが、小さい生き物にさわることができてよかった。

《指導のポイント》

- ・びわ湖の水辺での活動をする際には、活動の内容に応じた場の工夫が必要である。
- ・学校周辺の川の水とびわ湖の水を直接観察することにより、水について考えを深めるようにする。

《児童の学びの実感を求めて》

- ・子どもたちが学習したという満足感を得るために必要なことは、課題意識がはっきりしていること、課題解決のための方法を児童が明確に理解していることである。それを実現するためには、課題やその解決方法を児童が選択できるプログラムを多く取り入れることが大切である。